

風薫る季節、日ごとに濃くなっている緑にも木々によっていろいろな緑があるんですね。美しい新緑に心が浮き立ち木々からエネルギーを貰える感じがします。

桜は例年より早く咲いたのに、季節の境目の変わりやすい春の天気は冬に戻ったり初夏になつたりで、まさに春に3日の晴れ間なしですね。バブルの頃はこの時期、ファッションの先取りを自認する人たちは、花寒の日でも震えながらも薄素材の先取りファッションで歩いていましたが、この頃はほとんど見かけなくなりましたね。

春が来たらUTOではカシミアフェアー(受注会)の始まりです。08秋のオーダーを承ります。

統計を見ると日本で販売されるニットの95%以上が輸入品でその多くが中国からのものだそうです。

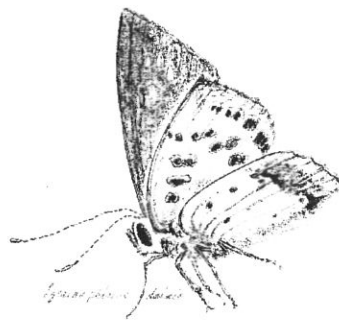
繊維産業は大きな工場設備というより人間の手仕事による生産が主になる為に工業化のさきがけの業種として輸出産業を牽引してきたのは歴史の示すとおりです。

産業革命としてイギリスに起こった繊維工場は海外の植民地から原料を輸入し、製品を世界中に輸出し英国の富を築きました。

その後重工業が発展するとアメリカに移りアメリカ工業化の礎になりました。太平洋戦争後の日本の復興に寄与したのも繊維産業でした。工場設備が破壊された敗戦の焼け野原から、人を中心の物づくりが出来る繊維産業が日本の輸出を支え外貨を稼ぐ精鋭会社は当時の花形企業でした。その後家電、精密機械へと高度設備技術の産業に移り今では自動車輸出を牽引しているのは誰が知っています。そして今、近代化が始まった中国で繊維産業がいち早く起こったのも当然ですね。

安い労働力を求めて空洞化した日本国内で、低価格の商品に対抗するには希少価値や高品質

化が求められるのは当然、カシミア&ハイクオリティニットが我が社の方向は間違っていないと思うけど、縮小の産業で失われた人材や技術がなんとしても惜しい。



ベニジミ

【南青山境界】 UTOはこんな街から発信しています

地下鉄銀座線・千代田線の表参道駅

東京で最もファッションナブルな地下駅?

毎日の通勤で降り降りする地下鉄銀座線の表参道駅は、青山通りと明治神宮参道の交わる下にあります。

地下鉄銀座線は1927年(昭和2年)に浅草・上野間に日本で最初に地下鉄が開通したという古い線、浅草から日本橋、銀座を通過して赤坂から渋谷へ抜ける、東京でも一番華やかな街を通る東京のメインの線です。

旅行屋として74年に独立して事務所を開いたのがこのすぐ近くでした。当時この界隈は閑散としていて、目立つのは紀伊国屋くらいで、今の発展振りとはほど遠くそれまでオフィスが虎ノ門だったので随分落ちたという印象でした。

以前、この表参道駅は神宮前と言っていました。1972年(昭和47年)に駅名が変わり、千代田線が開通して小田急線と乗り入れして、渋谷方面から田園都市線も乗り入れ、2年前に駅構内が改装されて小さな駅ながら今では東京の地下鉄の駅の中では最もお洒落というファッショントレン

ドを意識しているとても活気のある駅になりました。

これは、地上のファッションの街・表参道を大いに意識し協調するように思えます。東京駅や新宿駅などの乗降客がべらぼうに多いターミナルの駅は駅自体が一つの商圏として商業施設が揃っていますがこの表参道駅はそれとはちょっと雰囲気の違いがあります。

毎日降り降りして感じるのが構内のポスターのグレードの高さです。ファッションブランドや優良企業の巨大なポスターがかなり贅沢な空間を取って掲示されています。時には駅構内の柱や通路全面に一つの製品やブランドのポスターが貼られ、いかにも金がかかっている!という感じが分ります。そんなに大きな駅でもないし、乗降客数で他の駅より多いというわけではないと思いますので広告の効果の程はどれくらいあるんだろうと思いましたが、トレンドの発信基地として捉えられているでしょう。

特徴のもう一つが、2005年12月にオープンしたエチカという地下商店街です。(駅と地下とをあわせた造語なんです)

現在JR東日本が盛んに開発しているエキナカの地下鉄版です。大手町のように巨大な地下鉄の駅などでは駅の構内に沢山の店がありますが、この程度の小さな駅ではこの表参道のほかにあまり無いと思います。

今まで駅の改札内はキョスクぐらいでしたがここには紀伊国屋まであります。そうです。あの高級店の紀伊国屋です。お隣にベグル屋さんがあり、たまに買いますが、もっちりしていて一つでお腹を満たしてくれるぐらいボリュームがあります。素敵なレストランも入っていますし、アクセサリーやネイルサロンなどの店もあります。かなり女性を意識したお店の選び方です。

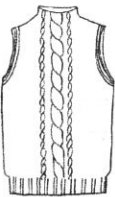
UTOへこられるときは是非地下鉄でお越しください。東京駅からは丸の内線で赤坂見附で乗り換えるのが便利です。渋谷からは一駅です。



カシミア100%
ボトルネックベスト

No. 1003-1002 ¥48,000.+TAX

毎年人気のローゲージベスト。
今年はボトルネック。
カジュアルにもってこいです。



カシミア100%
インターシャ

No. 1012-1029 ¥58,000.+TAX

ちょうどお尻が隠れる位の丈の
タートル。
柄もシックなので、今年はパ
ンツを合わせてみませんか?

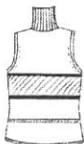


カシミア100%
配色ポレロと配色ベスト

No. 1012-2022 ¥
65,000.+TAX

No. 1012-1033 ¥38,000.+TAX

淵にボーダーの配色入れた上品なカーデガンと、シンプルな配色のノースリーブ。
もう少し暖かくなったらアンサンブルでどうぞ。



* ファッション販売員のための ニットの話 * (二十五)

なぜそんなに早くから注文するの？

カシミアフェアーのお知らせとご案内

カシミアフェアーが好評な訳、業績のいい店は考え方が違う。考え方が違うとアプローチも違うと思います。ある成績の良いお店にお伺いして秘訣をお尋ねしたことがあります。

『秘訣なんてないですよ！』とおっしゃいながらいろいろ話をしてくださいました。

『カシミアフェアーの一番のポイントはお客数です。事前のお知らせが一番大事でなんと言っても電話案内です。』と、そのお店の経営者はおっしゃいます。

『他様のお店は知りませんが、うちの店では』と言う前置で、『催事で食事やプレゼントなどを出すことはありません。フェアーのご案内は葉書です。葉書には販売員の直筆のコメントがないと殆ど意味がありません。どんなにきれいな絵の葉書でも何百人に出したかもしれないような葉書をもっても嬉しくありませんから。』

『何より重要なのは来店時と電話での案内です。基本的にうちのようなブティックにこられるお客様は、生のコミュニケーションを求めて来店していただいているんですよ。』

『でも、考え間違っている。電話案内は呼びつけになってしまふ危険性があります。』呼び付けじゃないご案内をきちんと指導することだと思います。

『よくわかってる販売員は嬉々として電話してらんです。本当に楽しんでる。』お客様は誰々さんには、既成のセーターは袖が長いというようなことを接客で知っていますから、想像力を働かせてカシミアフェアーでは、こういうことも出来る、ああしたらきつと喜んでくれる。相手のことを思って案内していただけます。話しも弾みます。

『一方、お客様に電話で案内するのをためらっている販売員もいるんです。そんな販売員は、お客様に電話でお願いで、来店していただいて売りつけるような意味に捉え

ている可能性が大きいんです。『買っていただいて申し訳ないみたいだね。』

『これは正しく理解していないとんでもない誤解になるかもしれないと思ひ必ずこのことは理解してくるようにならんと説明します。』

『販売が仕事だから売上を上げなければいけないから』と、思っている販売員には、貴方が案内をされる立場だったら、それも一番好きなことに置き換えて考えて御覧なさい、と言ってあげるんです。例えば温泉旅行が好きなら、『もし貴方が前々から行きたいと思っていた憧れの温泉旅館の良い情報をいち早く教えてくれたらきつと嬉しいでしょう。予約を入れるのは都合さえ付けば早いほうが良いでしょう。そこへ泊まりに行きたいためにいろいろものを我慢していただいだから。』

『もし、半年前から予約を入れたらカレンダーに印を入れて楽しみにするでしょ。』

『不安な材料を取り除いてあげる。目から鱗が落ちたように嬉々として積極的にいれることができるんです。』

『こんな良い情報だと思ふからいち早くお知らせする。それ以上でもなければ、それ以下でもない。貴方の中にある、売上が買ってほしいという頭があったらまずそれを外さない。』お客様は電話をかけて誘ってくるのを待っているんです。来店されるかどうか判断されるのはあくまでもお客様なんです。

『そのお客様はもう長い間この店のお得意様なんです。たまたま通りがかってフェアーをやつて、電話をもらっていきなかつた。どんな気持ちがある？』

『私に声を掛けてくれなかつた。と思つたら寂しいでしょう。』どうせ買わないと思つたら私は対象外、なんて思われたらそれこそでもないでしょう。『ま、これがきちんとできるのがプロの販売員なんですけどね。』



『こんな良い情報だと思ふからいち早くお知らせする。それ以上でもなければ、それ以下でもない。貴方の中にある、売上が買ってほしいという頭があったらまずそれを外さない。』お客様は電話をかけて誘ってくるのを待っているんです。来店されるかどうか判断されるのはあくまでもお客様なんです。

忙中暇話・ニット屋のたわごと

ナンジャモンジャの花味く頃



桜の花が終わって緑の葉が出揃ったゴールデンウィークの後半頃になると、小金井の自宅のマンションから白い花が咲く木が見られます。植木屋さんの事務所があるところ。そこへ引越してきた最初の春、『白い花水木が咲いているんだな』と思つていましたがこの花は『なんじゃもんじゃ』という変わった木花でした。

『なんじゃもんじゃ』なんて、一度聴いたら忘れないこの珍しい名前前の木と出合ったのは青山の神宮外苑の絵画館の前です。

何年前かの冬の頃すっかり葉が落ちた3メートルほどの木に『なんじゃもんじゃ』という名前の札と簡単な説明があり本当にあるんだと知りました。それまでは誰かが面白おかしく云つていたんだらうぐらいに思つていました。モクセイ科の高木で正式名はヒトツバタゴというらしい。

この、なんじゃもんじゃの花を始めて見たのは岐阜県の恵那市付近でした。ニットの大先輩で、このニット便りで紹介した『よしべのおつちやん』の伊藤さんを訪ねて恵那まで出かけて云つた時のことです。

ゴールデンウィークが終わった5月の中ごろ訪れた恵那路はこのなんじゃもんじゃの花が満開の時期でした。木全体に真っ白に咲く花の様は雪に覆われたように美しくこのならではの珍しい光景でした。

絵画館の説明書きに自生地は東濃地方と書いてあったのを思い出しましたが、恵那はまさに東濃でした。

恵那市の隣の蛭川(ひるかわ)村では村の木に指定されていて、蛭川中の校章にもこのなんじゃもんじゃの花が使われ、蛭川カントリーのシンボルもなんじゃもんじゃの花で、コースにも植えられていてスコアカードにもこの花がデザインされていて皆に愛されているのを感じます。

花が咲くこの頃じゃないとなかなか判別しにくい木ですが、こんなに珍しい木なのに、小金井の周りでも春の花の季節なら気をつけて捜すと思わぬところで見つけることが出来ます。

調布にある深大寺の門前のお蕎麦屋の鳩田屋の前に一本、深大寺の境内にはかなり大きな木があります。深大寺と隣接する神代植物園にも何本か植えられています。

そして我が家から見える植木屋さんの入り口。東京経済大学の近くの民家にも一本ありました。きつとこの人は岐阜の出身者なんだろうなあ、と密かに、かっけて思つていきます。

世界のホテルを旅する (二十五)

元、旅行屋のお勤め ケルクラード・オランダ

元、旅行屋を旅する (二十五)

ロールダック

元、旅行屋といつてもちよつと変わった旅行屋でした。今から30年も前で海外旅行がこんなに一般化していない頃、アマチュアの合唱団、ブラスバンド、オーケストラ等、音楽愛好の人達に、『海外での夢のコンサートステージを実現させる』という旅行が、一番の得意分野でした。

受け入れてくれる街や団体との打合せから始まって、コンサートホールの手配、観客動員、旅行の資金集めまで団員と一緒に考える、大手の旅行社など決して手を出さない面倒な旅行で、準備が二、三年かかっていたに掛かっています。民間の文化交流という自負がありました。それだけに一つ一つの旅がやりがいのある思い出深いものです。

ヨーロッパへのコンサートツアーが多く、中でも、縁あって強く心に残っているのがケルクラードというオランダの小さな街です。あまり馴染みのない街だと思ひますが、オランダの最南端でドイツとの国境の街です。

この街にロールダックというホテルがあります。本来は尼僧院ですが、建物の一部を宿泊用として一般にも開放しているんです。多分この街一番の宿泊施設だと思います。

歴史的な僧院の建物をホテルとして改装したロールダックは外から見ると一見地味な建物です。決して豪華ではないけど重厚な建物は威厳があつて、清潔で静かな、思い出深いホテルです。

口の字型の造りで、外からは何の変哲もない古臭い石や煉瓦造りの建物ですが外からは窺い知れない落ち着いた素敵な中庭があります。中庭は石畳と芝生、僅かなバラ園があり、中庭から回廊を通して明るい陽光が建物を含み、古い石造りの建造物にありがちな陰鬱な感じはしません。



尼僧院ですから立派な教会があります。神戸の甲南女子高校のコーラスの生徒達と滞在している時の教会を使わせてもらいました。とっても良い響きで、あたかも自分たちが楽器の中にあるような気分です。ゴシックの美しい天井まで昇った彼女たちの声が、天から降ってくるような残響に、思わず鳥肌が立つような感動でした。

指揮者の森先生が『この残響を体験すると二分休符の意味と効果が良く解かりますね』といわれた言葉が印象的でした。『四分休符とおっしゃったのかもしれません。素人の僕には微妙な違いが分かりません。すみません。』

この小さな街は、毎年世界音楽コンテストを開催している音楽に理解の深い街です。学生達と一緒にこの街を訪れる度に、市長さんが直々に全員を市庁舎に呼んでお茶をこ馳走して下さったり、街を挙げてホームステイを引き受けて頂いたり、本当に感謝しています。

ホスピタリティを持ったホテルと街と一緒に旅をしたあの頃のみんを懐かしく思ひ出すこともあり。みんないとお母さんになってるだらうなあ。